

週報 みえぎよれん

★浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌★

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

一経営の再建に向けて- 平成 26 年度水産関係予算の概要

平成26年度水産関係予算概算決定の概要

平成25年12月
水産庁

事 項	平成25年度 予算額	平成26年度予算 概算決定額 (A)	対前年度比 %	平成25年度 補正予算額 (B)	(A) + (B)	
	百万円	百万円		百万円	百万円	対前年度比 %
合 計	193,133	193,918	100.4	55,559	249,478	129.2
非 公 共(合計)	107,878	109,390	101.4	42,496	151,887	140.8
公 共(合計)	85,255	84,528	99.1	13,063	97,591	114.5
一般 公 共	84,142	83,415	99.1	10,973	94,388	112.2
水産基盤整備	72,149	72,149	100.0	10,973	83,122	115.2
漁 港 海 岸	814	704	86.5	-	704	86.5
奥山漁村地域整備 交付金(水産関係分)	11,179	10,562	94.5	-	10,562	94.5
災害 復 旧	1,113	1,113	100.0	2,090	3,203	287.8

(注) 1. 金額は関係ベース。
2. 計数は、四捨五入のため、端数において合計とは一致しないものがある。
3. 平成25年度予算の一般公共の各事業には全国防災事業費(東日本大震災復興特別会計への繰入分31億円)が含まれているが、平成26年度予算においては別途、東日本大震災復興特別会計に計上(26億円)されている。

26 年度水産予算概算が、昨年 12 月 24 日の閣議で決定したが、水産関係予算は、193,918 百万円で前年度に比べ 0.4%増、25 年度補正予算額 55,559 百万円を加えると 249,478 百万円となり前年度比 29.2%の増加。公共・非公共事業別で見ると、補正予算額加算後の前年度対比はそれぞれ 14.5%増、40.8%増となっており、非公共事業予算が厚くなっている。

非公共事業の中でも、特に沿岸漁業者にとって関連深い対策として、燃油価格や配合飼料価格が急騰したときに補填金が交付される漁業経営セーフティーネット構築事業の燃油については、原油

価格が「漁業用燃油緊急特別対策」の発動ラインを越えた場合、上昇分の国の負担割合が 1/2→3/4 に増えることなどが盛り込まれている。さらに省燃油活動推進事業では、省燃油活動(燃費向上のための船底状態改善や効率操業のための漁場データ収集・分析その他)を行う漁業者グループに対して支援が行われるほか、省エネ機器等導入推進事業では、同じく漁業者グループが導入する省エネ効果の高い機器類(LED集魚灯、船内・船外機その他)に対する費用助成制度が組み込まれた。その他、漁業構造改革総合対策事業では、沿岸漁業において三者以上の漁業者が協業化等を行うことにより、漁船漁業の収益性の向上等の取り組みに対し必要な経費を支援する、これまでの「もうかる漁業創設支援制度」の沿岸漁業版(通称:もうかるライト)も新たに加わった。ただし、この事業の採択要件としては、25 年度補正予算で新設された浜の活力再生プランを各浜で策定し、国の承認を受ける必要がある。また同プランを作成していることにより、他の関連事業を行いたい場合、優先的に事業採択される。

25 年度補正予算については、各事業の要綱・要領が水産庁から提示されていないため具体的な動きはこれからとなるが、26 年度当初から迅速に事業を行

っていくために、県および漁連では、県内関係者を対象に 2 月には随時説明会等の開催を予定している。

**幻の野生種 “アサクサノリ”
伊勢産あさくさ海苔 復活誕生！**

かつて海苔養殖の主要種であったアサクサノリ (*Pyropia tenera*) は、昭和 30 年代以降、病気に強く収量の上がるスサビノリ (*Pyropia yezoensis*) という種類にその座を奪われ、さらに主な生育地である内湾の河口干潟の多くが埋め立てなどで消滅していったために減少し、現在は環境省のレッドリストで絶滅危惧 I 類に指定されている。生育場所は限られており、全国でも数例しか報告が無く、その希少な自生地のひとつが日本一の清流宮川である。その宮川河口域で三重県水産研究所が採取したアサクサノリ野生株を用いて、平成 25 年度漁期に県内数カ所で養殖試験を実施したところ幻の「あさくさ海苔」を生産することに成功。希少価値の高い伊勢産あさくさ海苔が復活誕生した。

このアサクサノリの養殖に成功した生産者は、伊曾島漁協所属の 7 名と赤須賀漁協所属の 1 名。もともと成長が遅く、思うように収量が上がらないために、現在のノリ養殖の主流であるスサビノリ種に転換していった経緯があるため、今回の養殖試験でもなかなか成長がみられず、試験養殖は苦労を強いられたが、根気強く成長を見守り続けた努力が実る形となった。出来上がった製品は、スサビノリとは明らかに異なる独特の甘

み、香りがあり、昔の海苔の味を知る年配者から「これが本当の海苔の味」との声が聞かれたほど。

このアサクサノリは「伊勢産あさくさ海苔」として、1 月 24 日に三重漁連のり流通センターで行われる第 4 回黒のり共販に出品されるが、生産者ごとに製品の DNA を調べ、科学的根拠に基づき、アサクサノリの形質が認められたもののみを出品している。また「伊勢産あさくさ海苔」の名称は今年度、暫定的に定義されたもので、漁連関係者らは「今後、さらに養殖技術の確立と品質向上を図りながら、本県のあさくさ海苔を完成させていきたい。」と話している。

長い歴史を持ちながらも不振にあえぐ本県のノリ養殖業。この「伊勢産あさくさ海苔」がかつての栄華の時代を取り戻すための救世主となりえるか。これからの動向に、全国から熱い視線が集まっている。

**Fish-1 グランプリで全漁連会長賞を受賞！
-伊勢湾漁協青壮年部-**

18 日、東京・六本木ヒルズアリーナで開催された「魚の国のしあわせ Fish-1 グランプリ FINAL」で伊勢湾漁協青壮年部が出品した作品が全漁連会長賞を受賞した。今後、地元で愛されるグルメ商品になる日も近い!?かも。伊勢湾漁協青壮年部の皆さん、おめでとうございます。



伊勢あさり漁師飯の焼おにぎりひつまぶし風

本文の無断転載・転用等は固くお断りします。